

藩祖 酒井忠勝

①

酒井家庄内入部400年の記念の年に当たり、致道博物館は4月から12月にかけて特別展を開催しています。第4部の「藩祖 酒井忠勝」では、酒井家3代であり、藩祖でもある酒井忠勝の事績をたどっています。本連載では特別展の内容に沿って6回に分け、その事績を紹介します。1回目は江戸時代初期、酒井家入部以前の庄内についてです。

最上家時代の庄内統治

戦国時代末期、山形の最上家と越後国の上杉家は庄内地域の覇権をめぐって熾烈な戦いを繰り返しました。天正19(1591)年には、

それまで庄内を治めていた大宝寺(武藤)家が豊臣政権により改易され、庄内は上杉家の領国に組み込まれます。しかし、慶長5(1600)年関ヶ原の戦いで徳川家康が勝利すると、翌年、最上家が庄内を領有することとなります。最上家は、上杉家領(置賜地域)を除く、現在の山形県内と由利地域(秋田県内)を領する57万石の大大名となり、

復興と寄進を行い手厚く保護するなど、庄内地域の発展の礎を築きました。酒井家文書「左衛門尉領内庄内二郡之内最上出羽守殿黒印所持之寺社在之候右黒印写(享保11年)」によれば、寺社への寄進状は庄内全土120カ所にわたって発給されています。土地を寄進し、領内の治国平天下を願

ったものです。

封されます。なお、最上義俊は27歳で亡くなり、4代義智は幼少のため領地を平減され、5000石の交代寄合(幕府の職の一つで、譜代大名並みの待遇)となりました。(致道博物館学芸部長・本間豊)



最上家時代鶴ヶ岡城之古図(大泉書誌絵図二より)。寛文4(1664)年に口伝をもとに作成されたもの。二の丸に最上家重臣の屋敷を配し、その外には町人町があったという



鶴岡市指定文化財「鯛口 最上義光奉納 慶長十六年辛亥五月吉日」。鶴岡市山王町・日枝神社蔵。社殿の前に吊るし、拝礼の際に参詣者が綱を用いて打ち鳴らすもの



◇掲載にあたり
酒井家庄内入部400年記念で、鶴岡市の致道博物館は特別展第4部「藩祖 酒井忠勝」を10月31日(月)まで開催している。藩祖・忠勝公の事績について、同館の本間豊学芸部長から執筆いただいた。6回連載予定。